



泉新だより

令和 5年 7月 3日
練馬区立泉新小学校
校長 宮崎 晴美

教育目標 : 思いやりをもち助け合う子 よく考え進んで学ぶ子 健康でやりぬく子

長い夏休みの過ごし方

校長 宮崎 晴美

「早く夏休みにならないかな～」と子供たちのつぶやきが聞こえる時期になりました。

長い夏休みをどう過ごすか、親にとっては頭の痛いところですが、子供たちにとっては、規律に縛られた集団生活から解放された開放感を期待しているのでしょう。

有意義な夏休みを過ごさせるために、一般的に言われることが、生活リズムを崩さないことです。学校へ通う毎日と同じように早寝早起きを心がけ、勉強は朝のうちに済ませるのが理想でしょう。とは言っても、学校のようにチャイムは鳴らないし、日直さんの号令もないので、どうしてもだらだらとしてしまいがちです。おうちの方がチャイムや日直の号令代わりに、口うるさく叱咤する毎日では、せっかくの夏休みが台無しです。

子供たちが、自主的に学習を進められるように、大人のサポートも欠かせません。学校では、一学期の振り返りをします。何ができるようになって、何が足りなかったのか気付かせることで、次の目標が見えてくるからです。一学期に今ひとつ伸び悩んだことを克服するために夏休みを使ってほしいと思っています。生活面では、「お片付け」「早寝早起き」「お友達との関係作り」「忘れ物」…。学習面では、「漢字」「音読」「計算」「調べ学習」…。欲張らず、達成可能な計画を立てることが大切です。お手伝いをお願いします。

また、学校では学習できない活動を行うチャンスであることも夏休みの大きな意義の一つです。学ぶ材料は、身の回りにたくさんあります。例えば、お出かけ前に地図を広げて場所の確認をする。まだ地図の学習が始まっていない1年生だって早すぎることはありません。その地の名所や名物を調べてから出かけることさらに楽しいお出かけになります。行き慣れたおばあちゃんの家も、見方を変えれば学習材料がたくさん含まれているのです。ぜひ計画段階からお子様と一緒に調べ、旅のしおりを作るなど、主体的な学びの機会をつくってください。

以前、子育て中の先生から伺った話です。3人のお嬢様がいらっしゃるご家庭でしたが、お子さんが6年生になった夏休みに、6年生のお嬢様1人を連れて広島へ母子2人旅に出かけると決めているそうです。歴史の勉強で戦争を学ぶ時期に、原爆ドームや平和記念資料館を見せたいという思いからだそうです。夏休みといえば家族そろっての旅行が定番と思っていた私にとって目から鱗でした。広島原爆ドームを見学するのに、1年生の子と6年生の子では、その感じ方が違うのは当然です。適切な時期に有効な体験をさせてあげられたら、その学習効果は絶大です。だからといって家族5人で3回広島へ旅行するのは多大な費用がかかります。2人なら気軽に出かけられるという利点もあります。3人姉妹の中でお母さんを独り占めできることは、数少ない経験となるでしょう。そして、下のお子さんもその時期が来るのを心待ちにして事前学習に力を入れることでしょう。

私が子育て中毎年行ってきたのは、各種のコンクールに応募させることです。夏休み前には、多くの企業や法人が子供たちに学習のきっかけを提案してくれています。作文・図画工作・料理・俳句・書写等々、子供に自分で選ばせ、自主的に取り組ませました。もちろん、準備や手直しの手伝いはしましたが、必要以上のだめ出しはしないように気を付けました。宿題ではなく、自主的に学習することを覚えるよいきっかけとなったと思います。頑張った成果として参加賞や賞状がもらえるのもうれしかったようです。

各種団体のコンクール、コンテストの募集要項リンクを泉新小学校ホームページにて随時紹介します。よろしければ参考になさってください。